

令和 5 年度第 6 回茅ヶ崎市市民活動推進委員会 会議録

議題	(1) 令和 6 年度実施市民活動推進補助事業公開プレゼンテーション
日時	令和 6 年 3 月 1 6 日 (土) 1 2 時 3 0 分から 1 6 時 5 0 分
場所	市役所本庁舎 2 階 会議室 4 ・ 5
出席者氏名 欠席者	山口敦史 藤間英里 市川歩 菅野敦 羽場大祐 雫石剛 船山福憲 若林英俊 坂田美保子 山田修嗣 事務局 4 名 市民自治推進課 三浦課長、小西課長補佐、服部副主査、柿澤副主査
会議の公開 ・ 非公開	公開
傍聴者数	2 5 名 (内 Zoom 6 名)

○事務局

皆さまおはようございます。

本日はお忙しい中お越しいただきましてありがとうございます。

ただいまより令和6年度実施市民活動推進補助事業公開プレゼンテーションを開会いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、佐藤市長より一言御挨拶申し上げます。

○佐藤市長

皆さんこんにちは。御紹介いただきました市長の佐藤でございます。

お忙しい中、また、お休みのところお越しいただきまして誠にありがとうございます。

今回この事業は、市民の皆さま、或いは事業者の皆さまから御寄附をいただいて実施させていただいている事業でございます。

そういった寄附金は1円たりとも無駄にはできないわけでございますけれども、補助金は本来は行政が、私どもがやらなければいけないことを皆さんにお願いしている事業もあるのではないかと、福祉の分野であったり、防災の分野であったり、それは補助金というよりも、もう分担金といいますか、もう皆さまにお願いしてやっていただく、そういった事業ということもしっかりと、私たちも肝に銘じていきたいと思っております。

本日のスタート支援事業の発表時間は5分。ステップアップ支援事業8分という本当に短い時間であります。

限られた時間ではございますが、プレゼンテーションの中で想いを伝えていただき、ぜひ来年度に事業に取り組んでいただきたいと思いますし、他の団体のプレゼンテーションを聞いている間に様々なアイデアももらえんと思ひます。

こういったことならあの団体に協力できるかなとか、ああいうことなら、うちの団体も一緒にできるかな、そんなことも思ひながらプレゼンテーションをやりたいと思ひますし、今日も市役所前広場でフェスをやっていますけれども、ああいったところもどんどん活用していただいて、少しの間、コロナ禍でまちが停滞していましたけれども、まちの活気を皆さまと取り戻していきたいと思ひますので、本日はどうぞよろしくお願い致します。

○事務局

ありがとうございました。

佐藤市長は次の公務のため、これをもちまして退席させていただきます。

続きまして、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長より御挨拶申し上げます。よろしくお願い致します。

○山田委員長

こんにちは。

山田と申します。よろしくお願いいたします。

委員を代表しての御挨拶というより、はじめの言葉を述べさせていただきたいと思います。

皆さん、花粉の具合はいかがでしょう。私は今日、天候とは違いどんよりとしてきましたけれども、茅ヶ崎に降りたって人の動きが活発になっていると感じました。暖かくなってきた、人がどんどんと外に出ているというところを見て、これくらいよいよ年度替わりのタイミングで、皆さんの市民活動が本格化していくのだと強く感じたところでした。

今日皆さんに御紹介いただく事業は、市民活動推進補助事業が正式名称でして、通称、げんき基金や、市民活動げんき基金補助事業と呼ばれているものです。

私たち委員は、皆さまからの御提案、それから御報告に対して、市民側からの意見等を聞きながら制度の改善に向けて、様々な意見を自治体に対して述べるという役割を担ったメンバーです。

ですので、毎年このような形で、皆さんの御提案を聞かせていただいております。

今年度はスタート支援枠に4件、それからステップアップ支援枠に4件の8件の御提案をいただいております、それらが積み重なってこれまでに約180件の補助実績があります。

そして、今日この会場には本当に様々な年代の方が参加をしていらっしゃる、多様な市民活動をこの仕組みの中で一緒に盛り上げていきたいと思いますという会になります。

このあと団体の皆さんから御提案を伺います。すでに提案していただいた企画書と、それから今日の発表を聞いて、適宜質問やコメントなどをしながら、私達は皆さんとご一緒したいと思っております。そうしたコミュニケーションも今日は楽しんでいただければ幸いです。

簡単ではありますが、挨拶はこのくらいにいたしまして、今日の出席委員を紹介します。

(委員紹介)

私を含めて10名の委員が参加させていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

今日の報告会は、Zoom のウェビナー機能を使ってインターネットで配信をしております。

前に映っている画面や、皆さまが発表用のパソコンで共有された資料が配信されます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、今日のプレゼンテーションの流れについて簡単に御説明申し上げます。

冊子の 1 ページを御覧いただけますでしょうか。

進行に変更がありましたので別紙が挟み込まれているかと思います。

3 月 6 日変更と書かれているのが、今日の進行予定となります。

これから 16 時頃までの間で、令和 6 年度に実施をする市民活動推進補助事業として提案がありました 8 事業についてプレゼンテーションを実施いただきます。

時間配分は、スタート支援の団体は 5 分以内、ステップアップ支援の団体は 8 分以内で事業について説明をしていただきます。

時間管理について申し上げますと、まず終了 1 分前に 1 度ベルを鳴らします。

次に、予定時間を経過したところで、2 回ベルを鳴らします。

説明が終わりましたら、市民活動推進委員会からの質問、アドバイス等を行います。

こちらの時間につきましてはスタート支援が 8 分、ステップアップ支援が 10 分を予定しております。

説明中に 2 度ベルが鳴りましたら、途中であっても速やかに説明を終了していただくようお願いいたします。

皆さんの思いのこもった事業を、短い時間でアピールすることは大変かと思いますが、御協力いただきますようお願いいたします。

また、質疑応答の途中でベルが鳴りましたら、その質疑を最後とさせていただきます。

質問される委員の皆さま、発表される団体の皆さまにつきましては、1 問ずつできるだけ簡潔なやりとりに努めていただければと思います。

事業の評価については、市民活動推進委員会が企画書と、本日の内容によって行って参ります。

評価項目採否の基準につきましては冊子の 2 ページ、3 ページに記載されている通りです。満点の 60% を採択相当として、予算額の枠内で、順位に応じて採否を検討していきます。市民活動推進委員会による評価結果を受けて、最終的には市長が決定をいたします。

採択、不採択等の結果につきましては、皆さまに書面で連絡するほか、市ホームページでも公表いたします。

また、本日のプレゼンテーションの様子は写真を撮影して、市ホームページ、広報紙等に掲載させていただくことがありますので御了承ください。

最後になりますが、この補助金は名称の通り、市民活動推進基金を原資としている補助金です。冊子の6ページ7ページに、寄附をいただいた皆さまの名前を掲載しております。

寄附がなくなると、いずれこの補助金はなくなってしまうと思います。会場内には募金箱を設置しておりますので、ぜひ皆さまにも御協力いただければと思います。

それでは、これから進行表に基づいてプレゼンテーションを開始いたします。

では市民活動団体 ASOVIVART さんから準備をお願いいたします。

それでは、アートの力でまちを元気に、ASOVIVART（アソビバート）事業につきまして、市民活動団体 ASOVIVART さんから発表いただきます。

（市民活動団体 ASOVIVART 発表）

○事務局

それでは質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

では委員からの質問がありましたらお尋ねください。

○山口委員

当日のイベントに関して、プールが必要になると思いますが、その水はどう確保されるのでしょうか。

○市民活動団体 ASOVIVART

基本的に水場があるかどうかを事前に確認させていただいておりまして、水道が全く近くないところでのこのパフォーマンスの開催は考えていません。

ただ少し離れたところでも、これまでやってきたやり方ですと、スタッフの数が10人ぐらいおりますので、マンパワーで、バケツリレーみたいにやったり、あとはプールのサイズを工夫したりとか、そういう形で、現状対応しています。

あとは排水ができるかなども確認の上で実施している状況でございます。

○山口委員

工夫してやられていることがよくわかりました。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○市川委員

このような子ども向け、地域の多世代向けのイベントは様々なところで開催されていると思うのですが、今の映像を見させていただいて、何となくこういう感じでやられるのかなという雰囲気はわかったのですが、実際に参加される、例えばお母さんとお子さんが参加する場合を含めて、他の方たちと具体的にどう多世代交流を生み出していくのか、私もこういうイベントをすることがあるので、どう具体的にやられてるのかお伺いできればと思います。

○市民活動団体 ASOVIVART

多世代間で、子どもからお年寄りまでみんなで参加して楽しめる内容というのは、今私たちが課題と思って常に取り組んでいるのですが、まずはどの世代から見ても興味を持てるようなテーマや内容にすることを前提として考えています。

事例で言うと、今まで一番上手くいったのが、片瀬こま保存会という団体さんが藤沢にあるのですが、その方たちと共同して、茅ヶ崎市の中央公園で、こま回しの大会とワークショップを主催させていただいたことがあって、その時は本当に大人も夢中になって楽しんでいただいて、その場に集まったみんなで実際に、大会のような形で優勝者を決めたりとかもしたので、決勝戦が、おじさんとおじいちゃんと子ども5人というような感じになりすごい盛り上がりを見せたので、そのような形のものができるといいなと常に考えております。

また、私たちもアートのワークショップを得意にしていますので、まだこま回しができない子どもたちにも参加してもらえるように、2人で回す、紐をまわしてグルグル回るぶんぶんごまの様なものがあるのですが、その巨大なやつをみんなで絵を書いて作ろうというものも同時に行って、幅広い参加者の方に楽しんでもらえるように行いました。

この他にもイベントを行っていたりするので、毎回手伝ってもらえないとできない、例えば触覚にアプローチしても楽しめるものだったりとか、メインの作業はちゃんと絵を変えたり、色を塗ったり、そういった作業は少し難しいという方のために、押すだけで参加できたりするような仕組みを用意するには常に心がけております。

○山田委員長

続いて御質問、コメント等ありますでしょうか。

私から一つ質問です。アートの持つインクルーシブな特性、楽しそうで参加意欲

がわくというところは大変よくわかりました。

それについて質問です。今の市川委員の質問にも含まれていた通り、やはりインクルーシブという言葉を噛み砕いて参加者に伝え、その意味や重要性を少しずつでもいいので参加者に吸収、理解してもらうことは、皆さんの活動の中に含まれたテーマではないかと思います。

そのようなものを実際に伝え、参加者がコミュニケーションできるようにするために、今回の事業で工夫なさったり、或いはこんなことやってみたいと検討されたりしていることがありましたらお知らせください。

○市民活動団体 ASOVIVART

インクルーシブイベントと、この事業では謳っているのですがけれども、本来はできるだけこの単語を使わなくてもいいような状況を自然につくり出していければと常々思っています。

このビオロボットを取り入れた経緯にもなるのですが、まず子どもは見ただけでも、すごく興奮するくらい楽しんでもらえますし、最初に製作の実験を公園ですてた時などは、通りすがりのおじいちゃんにも興味持ってもらえるくらい、大人も見て楽しめるものと実感しております。

ですので、このパフォーマンス自体が非常にインクルーシブに楽しんでもらえるというところが一つと、このロボット以外にも、機械を入れていない、触っても壊れないビオロボットたちも、今作ったり、用意したりしてしまして、そういった部分で、実際に触ったりとか、持ち上げたりして子どもたちにも楽しんでもらえるかなと思っていて、あと魚について詳しく話ができるスタッフをそこに用意して、みんなにお話することによって、楽しんでもらったり、環境への興味を喚起できたらと考えています。

○山田委員長

どうもありがとうございました。

では時間となりましたので質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

ありがとうございました。

続きまして、子どもの遊びと学びにやさしい茅ヶ崎を大人も子どもも豊かに育つまちづくり茅ヶ崎アソマナプロジェクトにつきまして、任意団体わわわのわさんより説明していただきます。

それではお願いいたします。

(任意団体わわわのわ発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

では委員からの質問がありましたらお尋ねください。

○雫石委員

資料を読みますと 80 名ほど来場されていると思うのですが、参加される皆さんは里山公園の周辺ではなくて茅ヶ崎の全域から来られているのでしょうか。

○任意団体わわわのわ

私たちがInstagramとフェイスブックを使って発信をしているのですが、今までの傾向としては茅ヶ崎の方、藤沢の方、遠くだと、横浜とか鎌倉、あと二宮とかから来てくださっています。

○雫石委員

広い地域から参加していただいているとのことですが、茅ヶ崎駅からバスのルートがあるというお話もありましたが、里山公園の駐車場は通常有料ですが、里山公園の事務所とタイアップされているということは、駐車場は無料で利用できるのですか。

○任意団体わわわのわ

通常の形で駐車場を使っています。

わわわ広場という事業はシオジイ農園さんで実施しているのですが、そこは広い広場で、一角が駐車場になっているので、こちらは駐車料はかかりません。

ただ、バス停から少し歩くので、交通アクセスはあまりよくないですが、最近だとレンタサイクルとかを使ってきてくださる方とかもいるみたいです。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○市川委員

青空寺子屋についてお伺いしたいのですが、これから開催されていくとい

うことで、毎週金曜日に開催とあるのですが、すごく楽しそうなイベントなので、たくさんやっていただきたいと思うのですけれども、まず一つ目としては、毎週開催というのは、一年を通して毎週実施していられるつもりなのか、二つ目が、曜日が金曜日に固定なのか、というのは、例えば私も働いていたので、素敵なイベントがあっても平日だと行かれないとか、子どもを保育園に預けてしまっているとか、土曜日日曜日なら行かれるということもあったりするので、開催の曜日についてと、これからの開催予定について伺いできればと思います。

○任意団体わわわのわ

今回の事業は、日常の繋がりをつくる場というイメージでいて、里山公園で行っているプレイパークは土日祝日開催を基本にしていきたいと思っています。

今回の事業に関しては、今のところは金曜日の平日固定でと思っています。

ただ、以前も祝日に当たったりすると、普段来られない人が来られるから少しイベントっぽくお話ししてみようかという話もあるので、そういう面もあるかなと思うのですが、平日の日常の場所を作っていきたいということがこの事業の趣旨なので、そういう意味で、基本的には固定で考えています。

毎週ですかという質問については、やはり基本毎週開いているということがすごく意味があると思っていますので、昨日も、今プレオープンという感じでやっているのですけれど、私も行けなくて、今日あそこにいるメンバーが1人で昨日は開けてくれて、毎回同じメンバーが集まっているので、スタッフ1人でも場を作っていけるなと思っています、手伝ってくれる人も増えてきていますし、そんな形で毎週開催を目標にやっています。

中止の場合、体調不良とか悪天候でという場合には、インスタグラムで皆さんにお伝えして、見てから来てくださいということで、今日はどうしても中止ですという時には、こちらでお知らせをしていきたいと思っています。

○山田委員長

続いて坂田副委員長お願いします。

○坂田副委員長

さきほど、昨今の子どもたちはなかなか外で遊ぶことが難しくなったり、学校でも体験学習が少なくなる中で、こういった遊び場があることは嬉しいと思いますし、とても楽しみにしている活動です。

今回、補助金額として半分を占めている映画の上映会。このゆめパの時間はとても素晴らしい映画で私も大好きなので、たくさんの人に見ていただきたいと思っていますのですけれども、定員が30人と書いてあるのは、その会場のキャパシティの

問題なのかなと思うのですがいかがでしょうか。

○任意団体わわわのわ

去年、別の団体のお手伝いで一度上映をさせてもらって、結構たくさんの方が来てくれたのもう少し集まるかなと思ってはいるのですが、本当は拠点に近い北部の方の会場を探しているのですけれど、有料の上映会ができる公共の施設が今まだ見つかっていませんで控え目に書いています。

私もたくさんの人に見てもらいたいと思っているので、どこかお勧めがあったらぜひ教えていただきたいと思います。

○坂田副委員長

有料でも見たい方はたくさんいるではないかと思うので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

○山田委員長

時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

続きまして、よいしカードを通して生死観について対話する会について、にじカフェより御説明いただきます。

準備をお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

(にじカフェ発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは質問等ありましたら、委員の皆さんお願いいたします。

○市川委員

今回、ランチの交流会も事業に加えたとおっしゃられていたと思います。普段カフェとして営業をされていて、今回のこのイベントでもランチの提供を考えられたのだと思いますが、事業の経費にランチ交流会の食材費のみが計上がされているのですけれども、事業費となるように、少し上乘せがあってもいいと思ったのですけ

れども、その辺りいかがでしょうか。

○にじカフェ

遠慮してしまいました。

普段出しているランチは一番小さいタイプを消費税込みで 550 円、イベントの時はもう少し小さいランチボックスを 500 円くらいでお作りしています。

○市川委員

皆さんからいただく参加費が 500 円なので、もう少し参加費を上げて、事業費に充てられるようにしてもいいのかなと思いました。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○坂田副委員長

とても重要なテーマで活動されていると思いました。

私もこのよいしカードを使って、自分が最後に何を大事にしたいのか、ぜひ体験したいと思いながら拝見しておりました。

今後の展望について、スタッフの中でもよいしカードを使って、専門家を招致せずに自力運営をしたい、目指すと書かれていましたが、スタッフの皆さんのスキルアップをどのように考えておられるか伺ってもよろしいでしょうか。

○にじカフェ

私たちの目標として、できる限り自力で運営していける力を持つということが、一つありまして、そのようにしています。

何度も、よいしカードの勉強会みたいのがあり、私も現在それに参加をしています。

やはりテーマが難しいがゆえに、どのように寄り添うのか、進めていくのかがとても難しいと感じていまして、体験を踏まえながら、その時に先生たちがどのような対応をするのかをお伺いしながら学んでいるところです。

少しずつステップアップしていくようなスタイルになっていまして、いずれも無料で参加させていただいて、何度でも参加してくださいと言ってくださっているの、私たちもスタッフそれぞれが参加をして、スキルを上げていきたいと思っているのと、既にお店でも仲間うちでは始めていまして、そういう経験をどんどん積んでやっていけるようになりたいと考えています。

○坂田副委員長

すでに皆さんのスキルアップが始まっているということですね。寄り添うことはとても難しいことだと思うので、機会があったらぜひ参加させてください。

○山田委員長

続いて雫石委員お願いします。

○雫石委員

市の社会福祉協議会や地区社会福祉協議会の分野にもかなり取り組んでおられると感じながら聞いていたのですけれども、市の社会福祉協議会から地区社会福祉協議会を通じてサロン活動に対しては補助金が出ています。

御存知だとは思いますが、そういったところからの補助は受けていないということなののでしょうか。

○事務局

はい。受けていないです。

先ほどもお伝えしたとおり、できる限り自力でやりたいと思っていて、しがらみなどに縛られずにやりたいという気持ちがすごくあります。

ただ、今回は皆さまに聞いていただきたいのと、私たちが本当に良いと思ってやっていることが本当にそうなのか評価していただける場でもあると思っていて、あと、また私たちも自力でやりたいと言いながらも、全くカフェではボランティア状態になっていますので、補助をいただけるとすごく助かるということで、今回応募しました。

○山田委員長

最後にもう一つ、短めに質問をお願いします。

○山口委員

動画サイトでよいしカードの遊び方を見てみました。自分でやるとどういう結果になるのだろうと思うところもありまして、御自身でやられてみて、何か新たな気づきはあるものなののでしょうか。それをお伺いしたいと思います。

○にじカフェ

よいしカードのやり方説明書にも書いてあるのですけれども、死ぬ瞬間を考えるのか、それとも、今から死ぬまでを考えるのか、2パターンで遊ぶようになっています。

それによっても選ぶものが変わってきますし、私はもう何度もやっていますけれども、その時に目につくカードが毎回違うのですね。

なので、その時によって感じるものが違いますし、あとは自分が選んだカードについてシェアをするのですが、他の方が同じカードを選んで、違うことをおっしゃっているのを聞いて、そうなんだ、と本当にびっくりすることも、毎回です。

なので、おそらくですが、繰り返しやっていくに従って、本当の本心、そういうものにたどり着けるのかなと感じています。

○山口委員

とても興味深いと感じました。御説明ありがとうございます。

○山田委員長

そろそろ時間ですので質疑応答は以上といたします。

○事務局

ありがとうございました。

続きまして、まるほ横丁に大集合いっぱい食べていっぱい遊ぼうにつきまして、特定非営利活動法人まるほ横丁さんから説明していただきます。

準備をお願いいたします。

では発表をお願いいたします。

○特定非営利活動法人まるほ横丁

(特定非営利活動法人まるほ横丁発表)

○事務局

ありがとうございました。

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よりお願いいたします。

○山田委員長

委員から御質問がありましたらお尋ねください。

○山口委員

収支予算書の中で、事業収入についてお伺いしますが、参加人数が15名となっ

ていますけれども、これまで4回の実績として、大体何人くらい参加されていて、今回の予定の参加人数はどういった前提をもとに割り出されているのか教えていただければと思います。

○特定非営利活動法人まるほ横丁

12月に企画書を提出していますが、それ以降に、2月と3月にも実施していて、計6回になるのですが、最初は15名程度だったのですけれども、今は参加者も増えてきてくださっていて25名程度参加してくださっているが現状になります。

○山口委員

ということは、もしかしたらもう少し参加人数も増えるかもしれないということでしょうか。

○特定非営利活動法人まるほ横丁

はい。その時その時によって変わってくるのでわからないところはあるのですけれども、今のところは25名程度を考えています。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○市川委員

このイベントの対象を見ますと、障がい児や障がい児等の御家族とあるのですけれども、先ほど普通校に通う児童と保護者、それからそうでない学校に通う生徒との交流が少ないという中から生まれた活動でもあると思うのですけれども、今回の企画された事業の中では、交流という視点でいうと、障がいのあるなしに関わらずどんな方でも参加できるという認識でいいでしょうか。

○特定非営利活動法人まるほ横丁

今お話いただいたように、今の活動はインスタグラムを見て福祉に興味がある方も参加してくださったりだとか、子どもたちも来てくださったりしていただいているので、障がい児、障がい児の家族かにかかわらず、参加者を募っている状況になります。

今お話をさせていただいたように、本当に様々な人が関われるような空間を作っていければと考えているところです。

ですので、分け隔てなく参加者を募集して、積極的に交流を生み出そうというような事業にしていきたいと思っています。

○山田委員長

他にいかがでしょうか。

○坂田副委員長

みんなで食べる、そういう時間というのはすごく大事なんですよね。

今、子ども食堂など様々な多世代食堂の取組があるのですが、一緒に食べる空間は、共有ができたり、お互いし合ったりすることができてとても重要だと私も認識しています。

今回、ピザに着目されたことも面白いと思って伺っていました。

質問は、法人格を取られたということですが、まだ1年足らずで、今後の法人運営を考えると、活動が充実してくると、やはり予算をどうしていくのか、どうやって会員を増やしていくのか、おそらく現在も悩まれているところではないかと思います。

魅力的な活動ですので、やはり情報発信に力を入れて、寄附促進や、それから参加する方々の後方にいるおじいちゃんおばあちゃん、或いは企業さん、そのような方の賛同が得られるような、広報戦略にも取り組んでいただけるといいのかなと思いました。コメントになりますがよろしくお願いいたします。

○特定非営利活動法人まるほ横丁

アドバイスいただいた通りで資金面は今後どうやっていけばいいのか、正会員の会費とあと賛助会員の方も徐々に増えてはきているのですが、今後の運営資金についてはメンバーとも共有しながら進めていければと思っています。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

今のことに関連して、今回のこの事業では、支出の内訳を見ていると、消え物にかかる費用、特に食材用の比重が大変大きいです。これは、ベンチやテーブルの購入に比べると、今後も活動のすごく大きな問題、課題となると思います。

今回のこの取組を通じて、そういうところに対するアプローチ、新たな収入源の確保に向けて、或いはその消え物費用の確保に向けて、今回の事業の中で取り組んでみたい、やってみたいことなどがありますでしょうか。

○特定非営利活動法人まるほ横丁

資金の獲得に関しては今のところどうしたらいいのかというのが、本当に正直なところで、今も全部赤字になっていて、正会員が資金を出している状況です。

今回、この補助金が通れば、浮いたお金で畑も広げようとしていて、これくらいの土地になるのですけれども、そこでみんなで収穫したものをまたピザに使うというような活動にも回していければとは思っております。

○山田委員長

お金の面だけではなくて様々な工夫ができるということがよく理解できました。ありがとうございます。

では時間になりましたので質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

スタート支援の部の4団体の発表が終わりましたので10分間の休憩を取らせていただきたいと思います。

57分から次の発表を始めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○事務局

それでは再開させていただきます。

これからステップアップ支援の部に移りまして、最初の団体、令和6年度茅ヶ崎市市民まつりにつきまして、茅ヶ崎市市民まつり実行委員会さんより御説明いただきます。それではよろしくお願いいたします。

○茅ヶ崎市市民まつり実行委員会

(茅ヶ崎市市民まつり実行委員会発表)

○事務局

ありがとうございました。

それでは質疑応答に移ります。山田委員長お願いいたします。

○山田委員長

質問がありましたらお尋ねください。

○市川委員

私も子どもの頃からよく行っていたおまつりだったので、非常に親近感があります。

出展者側の意図は非常によくわかったのですけれども、その逆の遊びに行く市民の方たちが楽しみにできる部分、コンテンツとしてはどういうものを考えられてい

られるかお伺いできればと思いますがいかがでしょうか。

○茅ヶ崎市市民まつり実行委員会

御質問いただいた内容は、まつりを作る側、参加団体側の趣旨はわかったけど、参加者に対してどういう対応していくのかという質問に近いと思います。

この事業は主たるところを来る方に主眼を置いてないのです。

参加団体はいかに自分たちの活動資金稼ぐのかが目的だと露骨に言っています。

このまつりは、市民が市民のためにやっていくことで、結果として団体を通した各種活動の結果、何らかの形で市民へ還元されていくというところがメインになります。

ただ、コロナで実施しなかったときや、去年は統一地方選挙で時期がずれて市役所前広場でやりましたが、これは市からの委託金がめちゃくちゃ少なくて、10万円と少ししかなかったのも、それくらいしかできなかったのですけれど、お客さんは来てくれるのですよ。それこそ昔からあったから。

そこは図々しくこちら使わせていただいて、あくまで参加団体のためにやると、そういう形でやらせていただきたいと思います。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○若林委員

茅ヶ崎市民本当におまつり好きです。天気がよければ相当の人数が集まります。

市民ふれあいまつりも含め、様々なイベントに携わっておられた方々が集まっていると思いますので、参加団体の育成や、活動の活性化においては、こういった機会は非常に重要だと思っていますので、これまで市主導で進めてきたおまつりではありますが、何らかの形で継続していく方法を考えていただけることは、個人的にもありがたいことだと思っています。

御説明の中に、市民まつりに対するふるさと納税の枠を設けることを、市に投げかけるというお話がありましたが、おそらく税金の控除の関係があり、茅ヶ崎市を応援したくて、ふるさと納税による寄附はあるかもしれませんが、税制の関係で控除できないことを市は考えてしまうと思います。その辺はうまく調整しないと実現しないかなと思いました。

○茅ヶ崎市市民まつり実行委員会

確かに市民からの場合は控除もございませんので、ふるさと納税の制度趣旨からいうと、若干ずれる可能性はあるのですが、茅ヶ崎から離れた方々で、茅ヶ崎

に思いがある方々、例えば、今教育とかそういう項目の使途については実は漠としているのです。

私が、例えば鹿児島県にふるさと納税ををするとしても商店街の活性化とかそのレベル感なのですけど、ある市は何々まつりの花火と出ているところがあるので

す。

それはやはり帰った時に、その花火に自分がお金を出していると思うことがあると思っているので、そういう意味では茅ヶ崎市民が、このまつりに寄附をすることはほぼないと実は思っています。

チャンネルを広げるという意味で、市外からのお金が入ってきて市の活性化で、ふるさと納税は各市町村の競い合いでもあるので、そういった意味でもいいのかなと思っています。

実はふるさと納税の去年の12月26日の3,000円は私がやってみました。

返礼品のチェックができないだけで、寄附はできるので、市民でもできないことはないのですが、市税が特定の目的に固定されたというだけで、私が納めるべき住民税の一部が、結果的にげんき基金に入ったと理解をしております。

○山田委員長

他にいかがでしょうか。

○山口委員

これまで何となく市民まつりへ行っていたので、仕組みがわかったような気がして、ありがとうございます。

今後の展望について内容が書いてあったと思うのですが、令和7年以降の開催は、実施体制も含めて現時点未定となっています。

私も委員なので、発展性等点数をつけなければいけないのですが、こう書かれてしまいますと、全然発展性がなさそうにも見えてしまうのですが、今後継続していく観点で考えられていることはあるのでしょうか。

○茅ヶ崎市市民まつり実行委員会

今の御質問に関しましては、正直なところを実は企画書に書いています。

本補助金をいただけるかどうか分からない段階で、来年度以降のことを勝手に書くことはできませんし、実は実行委員を構成しているのがボーイスカウト等の団体から出ている人たちなので、次年度以降の話はやはりお金の根拠がないと勝手なことはできないというのが実行委員会内での話です。

レンタルで済ませている部分を、1年以上実際に主体としてやった場合はある財団では、市民活動で行うおまつりとかに補助が出るので、さらに物品を買うことで

継続的にできる。PA が全部賄えた場合、次年度、7 年度に買えれば、市民まつりだけではなく、レインボーなど中止してしまったおまつりもおそらく復活できると思っていて、コストを見ていただくとわかりますが、半分くらい PA とかレンタル費になってしまうので、そういうところは、次年度以降の発展をさせるために、従たる目的のところに、実は今回ある程度のウェイトを置いてます。

そういう財団さんとかにお金もらいに行く時には、そういう資料がないと絶対駄目なので、そういった意味でも継続性に望みをかけたのが、従たる事業のところと御理解をいただければいいですし、あと 1 年は何とか助走期間として助けていただけると助かるなという気持ちはございます。

○山田委員長

後もう一つ短く質問できそうですけれどもいかがでしょう。

今回、目論見が主と従で 2 つあって、実行委員会の成長への期待と、それから展開していくノウハウの部分の 2 つについて今御説明がありました。実際に本補助金を受けて一番やりたい事業としては、市民まつりの実行委員会の会としての安定的な運営に主眼があるという理解でよろしいでしょうか。

○茅ヶ崎市市民まつり実行委員会

山田委員長の御理解の通りではあるのですが、付け加えさせていただきますと、もし我々のおまつりが継続できない何らかの事情ができたときに、市民が市民のためのまつりを小さくてもやりたいときはノウハウが必要になります。

そこまでを何とか繋いだ上で、発展的に解散したい思いはあります。

そこまでできなかったら解散もできないので、フラストレーションがたまってしまう、そういった意味で、山田委員長の御理解と合っているかどうかは若干微妙ですけど、そこまではやり遂げるために、従たる事業をきちっと入れて、金銭的にはそんなにかけられないので、そちらもきちんとやっていくというのが今回の主旨で、さらにここでの発表で、やりますという宣言をさせていただくということになります。

○山田委員長

では、時間がまいりましたので質疑は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

続きまして、夏休み子ども向け SAP 体験会 2024 につきまして、特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルユニオンさんから御説明いただきます。

それではよろしくお願いいたします。

○特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルユニオン

(特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルユニオン発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

委員からの質問がありましたらお尋ねください。

○山口委員

先ほど参加費のお話がありましたけれども、今回 500 円から 1000 円に値上げされたということで、もう少し高くてもいいのではないかなというようなアンケート結果もあったというお話です。

けれども、令和 4 年度の事業報告を拝見させていただきますと 1 回当たりの参加費が 500 円であることは概ね好評であったという報告もあったので、アップした方がよい判断された理由をお聞かせ願えればと思います。

○特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルユニオン

前回から今回の提案の間に 1 年ございまして、その間、実は夏休み子ども SUP 体験会として、参加費を 2000 円で実施した経緯がございます。

その際にも、500 円の時と比べると、申し込みがいっぱいになるまでの時間は少し長かったですが、それでもお子さんからの申し込みが非常に多く、2000 円でもいいのではないかなという思いもありながら、今回はこの補助金に応募もさせていただいている中で、1000 円でさせていただこうと判断し設定しました。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○坂田副委員長

先ほどの質問に続いてなのですが、私は参加費を 1000 円にアップしたことは今後の事業継続に向けて非常に良いチャレンジだと感じておりますが、アップした分、何か付加価値がついたなどあれば教えていただければと思います。

○特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルユニオン

細かいことで資料にはないのですが、子どもの SUP 体験会をやることで、他の団体さんと繋がりができています。

具体的に言うと茅ヶ崎のゴルフリンクスさんで、ゴルフの親子体験の後に、この SAP 体験をやっていただいたり、あとはスノーボードの競技をされている選手たちが体幹を鍛えるために SAP をやり始めたりとかです。

付加価値という意味では、他の団体との繋がりというのはあまり接点がないようなのですが、一緒にやろうよと言ってくださる団体さんが結構いらっしゃるということで、この子ども SAP 体験会だけが我々の事業ではなく、ジャパンカップを開いたり、あとは SAP を使った釣りの大会を開いたりという事業も含めて、親子で参加できるようなイベントとのドッキングが結構できるといった部分で、付加価値があると思っています。

○坂田副委員長

他団体との連携はとても大切なことで、今回で 3 回目の応募になるので、様々な団体とのネットワークが広がることによって、より SAP も注目されます。子ども達の体験できるイベントが横の連携によって広がっているのも、意味合いとしてはすごく重要だと思います。

○山田委員長

他にいかがでしょうか。

○山口委員

この事業と離れる部分もあるのですが、団体さんの活動の目的の中に、環境保全意識の向上がありまして、私もちょくちょく海岸に行くのですが、結構プラごみが多かったり特に T バーのあたりは夏になると、バーベキューの人とかが多かったです。プラごみが出て、当然マイクロプラスチックになっていくと思うのですが、海岸の環境保全や清掃のようなこと一緒にやるというようなことについて、何かお考えはありますか。

○特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルユニオン

我々の事業の中のジャパンカップでは大会終了後にビーチクリーンを開催するということをしています。

それともう一つ。スタンドアップパドルユニオンの母体のサーフショップでは、毎月第 1 月曜日にビーチクリーンをしています。

様々な大会、イベントをするときには、神奈川の美化財団さんの協力を得てごみ

袋を御提供いただいて、ビーチクリーンをしています。

あとはマイクロプラスチックに関しては、ざるを砂浜に持って行って、サラサラとやって、これだけあるよというような活動を年に2回くらいやっています。

それを全面に我々は出すというよりも、海を綺麗に遊ぼうという意味でやっている部分もあります。

○山口委員

茅ヶ崎の海岸には砂浜に残していいのは足跡だけという標語があるので、ぜひ子どもの皆さんにもそういうものを覚えていっていただければと思っております。

○特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルユニオン

伝えていきたいと思います。

○山田委員長

まだ時間あるようですので質問があればお願いいたします。

今回、事前の審査の際の印象で、参加費のアップについての判断が適切で、大変好ましいものだという評価が多かったです。

そして、併せて考えたいのが、そうした既存の参加者についても実績が積み重なってきている状況の中で、今回の参加者に対するさらなる啓発ですとか、教育についてです。そういうところで検討されているころがあれば御説明いただけますでしょうか。

○特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルユニオン

最初スタートアップの支援で実施した時には美化財団さんが作られている海の安全面というよりも、ごみを拾うことなどに主が置かれているパンフレットを配るなどしていました。

今回は別団体さんの水辺安全協会というものが国内にあるのですが、その団体さんが作られているお子さん向けの水辺の危険を伝える資料をお配りしたいと思っています。

茅ヶ崎は、夏などは波が数少ない時の方がどちらかというと多いので、そういった中でも波がどれくらい高くなるのかとか、あとは潮の満ち引きだとか、カレントという離岸流があるよとか、そういったことをお子さんがわかるような資料を一緒に配りながら、実際にSAPに乗って、海ってこんな感じだよねということを分かってもらえるようにしたいと思っています。

○山田委員長

時間になったようですので、質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

それではここで5分間小休止を取らせていただいて40分から再開とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局

それでは続きまして、ファミリー・アート・デーにつきまして、ARTノTANEMAKiさんより御説明いただきます。

御準備の方よろしいでしょうか。

それではよろしくお願いいたします。

(ARTノTANEMAKi発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

委員からの質問がありましたらお尋ねください。

○山口委員

先ほど令和6年度の事業展開についてメンバーシップ制度の運営というお話がありましたが、この事業計画書には明確に書かれていなかったもので、事業収入なしで無償の活動なので、将来補助金なしで本事業を無償で継続するための展望を教えてくださいとお伺いしようと思ったのですが、それはこのメンバーシップ制度の運営ということで考えてよろしいのか、ということと、もしそうであれば、それに関わる事業を、今回の事業の中に何らかの形で盛り込んでもよかったのではないかと思います。その辺の考え方が今おありであればお聞かせ願いたいと思います。

○ARTノTANEMAKi

令和5年に開催したファミリー・アート・デーは2回実施日がありまして、5月と11月でした。

5月は本当に時間がなくて、市の後援が取れませんでした。

11月は時間に余裕を持って後援を取りまして、教育委員会と茅ヶ崎市の後援を得て実施することができました。

そのおかげでInstagramとかホームページとか、そういったものを通して広

報するよりも、掲示板の広報力の強さを認識したところです。

またアンケートにお答えいただいた時の集約率も悪くはなかったというところも踏まえて、アンケートページから会員制のページにジャンプできるようなシステムを作ろうというお話をしたり、あとは南側だけではなくて北側の方々にも広報を徹底して、そういった方々がメンバーシップに加入できるような流れを作っていくことを考えているところです。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○坂田副委員長

先ほどの団体も子どもの遊び場、居場所に関する提案をされていて、茅ヶ崎は羨ましいと思って伺っていました。

企業さんからの廃材というところはすごくいい着目点だと思っているのですが、一方で活動を継続する中では、絵の具など様々な消耗品費、物品費が非常にかかっていて今回の補助金の中でも、その金額が多くを占めています。

事業は継続してこそ定着していくと思っていますので、先ほどのお話もありました、メンバーシップ制度で今後どのように消耗品費、物品費を調達していくのかについて、補助金以外及び補助終了後の展望をお聞かせいただければと思います。

○ART / TANEMAKI

普段は保育園などの現場に子どもアートのアトリエのスタッフとして入ることができるのですが、その時の絵の具の活動はシンプルで、量といい、可能性といい、非常に制限されていると思います。

そういうこともあるから、こういった事業をしていかないといけないと考えているところです。保護者の方から見たらヒヤヒヤする、絵の具の価値がわかっている人には、ちょっと待って、となってしまうような場面でも、ひとまずやらせてみるということが非常に大事だと思っています。

彼らは満足したら次のステージに必ず行くのです。

その時に絵の具のクオリティが変わってまた少し高価になるのかもしれませんが、そこはけちりたくないというのが単刀直入な思いです。

○坂田副委員長

子どもたちの想像力をもっともっと生かしてあげたいとなると、様々な部分で経費がかかってくるのだらうと思います。継続的に活動していくためには、例えば、寄附促進であるとか、或いは先ほどのメンバーシップの実施についてもお話があっ

たのですが、いい活動であれば賛同者は増えてくると思うので、ぜひ広報、情報発信にも継続的に力を入れていただければと思っています。頑張ってください。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

では、抽象的なことも含めて、意義を伺います。初期のミッションのアートに基づくワークショップから、今、活動成果を踏まえて、アンケートの結果も踏まえて、様々な展望が見えてきたという御説明、大変よくわかりました。

そうすると、今回の事業の中で、さらに理念の拡充に向けて、ワークショップの中で意図的に展開したいと思っていらっしゃる狙いですとか、理念的なこと、実践的なことでもいいのですけれども、何かそういう挑戦的な意味でやってみたいことがあるれば御説明をお願いできますか。

○ART ノ TANEMAKi

浜之郷小学校で学びの共同体というものがあるのですけれども、そちらで主に導いてくださっている佐藤先生の考える子どもアートの哲学が非常に共感できて好きなのです。

そういった意味では、ワークショップの狙いが、毎回変わっていくことはすごく重要だと考えています。

令和5年度の事業では、狙いが子どもの新しい横顔を見つけようというところに置かれていたのですけれども、今年度もそういうテーマにしてしまうと、親御さんはすごい子どものことを見てしまい、結果として、全然自分たちは作らないねとなってしまうました。振り返りの場はすごく豊かでいいものにはなったのですけれども、保護者御自身が新しい素材に触れて、造形をすることが少し減ってしまったので、もったいなかったと感じているところから、ワークショップ中には保護者の方も手を動かせるような狙いを持って、環境設定をしていこうと考えていることが一つと、二つ目には、会員制のプログラムの中で、最初にその子どもアートの理念や哲学がわかるレクチャーを少し含んで、そのあとに、実践をしていく、レクチャーとワークショップのかけ合わせたものを少し考えていて、その上でファミリー・アート・デーに参加したり、他のアートワークに参加したりという流れが組めるようにと考えています。

○山田委員長

その語ろうとされている理念について、今、どのようなことを語ってみたいと思ってらっしゃいますか。

○ART ノ TANEMAKi

子どもたちは作って満足するというものではないと感じています。

作っている途中に気づいたこと、あと、自分はこの素材ばかり使っているということは俯瞰しないとわからないことがあると思います。

そういった動きの中で、私たち大人がどう子どもたちに関われるかというところがすごく重要だと思っています。

関わりすぎない、だけど放置しすぎないというその塩梅によって、子どもがどれだけ自由に活動ができるかというところも非常に重要だと思いますし、保護者にとっては、子ども達は自由な方がいいよねとは言っても、家中絵の具だらけになってしまったら困るわけですね。

だから何をもってして自由と感ずるのかは、世帯それぞれで違っていると思っています。

ただそれが毎日揺らいでしまうのは困る。子どもの的にも困るので、それは全然自由ではない、ではうちにとっての自由はどこまでを許して、どこまでを自由とするのか、或いはその想像の自由というのはすごく豊かに広がるわけですから、どのようにその機会を持たせ続けることができるのかなど、簡単なところで言いますと、その辺が入口になるかなと考えています。

○山田委員長

そろそろ時間ですので質疑応答は以上とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○事務局

続きまして、ボランティア養成講座、ホームページの作成につきまして、一般社団法人リトルハブホームさんより説明していただきます。

よろしくお願いします。

○一般社団法人リトルハブホーム

(一般社団法人リトルハブホーム発表)

○事務局

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よりお願いいたします。

○山田委員長

委員からの質問コメントがありましたらお願いいたします。

○坂田副委員長

やりたいことが非常に多くあると思って聞いていました。

今回の補助金で何を申請したいか、もう少し深掘りをさせていただきたいと思うのですが、ボランティアさんが普段の活動で少ないという課題をお持ちだと伺いました。

そのためにボランティア養成講座を作るということと、それから、活動を始めたくなる方へのアプローチとしてホームページを作りたいということによろしいでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム

先ほどステップの図にもありましたように、令和5年度はきっかけづくりとして、連続講座を開催し、きっかけづくりとして子どもたちの課題を知るという講座に参加していただいたのですが、定着については課題をこの一年間感じました。

ホームページを作成して、関わり方のハウトゥや、ボランティアさん同士のネットワークを構築することで、定着を目指したいと考えています。

それぞれがハブとなっていくことを目指しています。

○坂田副委員長

目指したい目標はよくわかるのですが、やはり一歩ずつ着実に進めていくことが必要だと思って質問をさせていただいたのですが、ホームページを作ると、今度はそれをうまく活用することが必要になり、活用できるスタッフさんが必要となってきます。

では、ボランティアさんは誰が育成するのか。

今、皆さんの団体の会員数は3名と記載されていますが、この3名の方がボランティアさんを育成するということによろしいでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム

3名は理事の人数です。

活動は様々に関わっていただいていて、今回、この補助金で提出させていただいた6回の講座の中で、心理士さんなどがいらっしゃるので、そういった方々と一緒に作っていくこと、ホームページを作成するだけではなくて、その段階も、みんなで作っていく場所が大事になると思っています。それぞれが主体的に、ともに作っていく感覚を持てるような、ボランティアはそもそも自主的という意味を持っているので、共に作っていく1年にしたいと思っています。

○坂田副委員長

何となくのイメージはわかるのですけれども、ホームページを作成することで、皆さんはどういうボランティアを育てていきたいのか、どういう方々と関わりによってリトルハブホームをより素晴らしい居場所にしていくのか、みんなと一緒に作っていきたいというイメージでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム

子どもたちも多様化している中では、本当に様々な関わりも必要だと思っています。

ただ、一緒に料理を作ったりとか、居場所、うちがやっているのはおむすび寺子屋というのですが、今回にじカフェさんなど様々な団体さんとも繋がって、それぞれ子どもと大人の相性もあるし、畑に行きたいというお子さんもいらっしゃる中では、まち全体で関わっていく、そうやって育て育ち合っていく仕組みが必要だと考えています。

○坂田副委員長

その仕組みに向かって育てたボランティアさんが一緒に歩いていく道筋を作りたいということでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム

はい。皆さんでまちを作っている感覚を持てるようなホームページを考えています。

○坂田副委員長

かなり中長期的なビジョンを今お話されているので、もう少し具体的にここまですべていこうという事業計画を立てられると、理想だけでなく、着実な活動に繋がっていくと思いましたので、助言をさせていただきました。

○山田委員長

続いて御質問コメントいかがでしょうか。

ほぼ同じ質問なのではございますけれども、結果的に今年度の1年間で考えると、この提案内容は、皆さんの既存の御経験をアーカイブしておきたいということでしょうか。その思いが非常に強くて、ホームページの立ち上げが必要だとお考えだと理解すればよいでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム

なぜ私たちが活動しているか、何を目的としているか、どう関わればいいかを視覚化することがすごく大事だと考えています。

○山田委員長

形にきちんと残したいということが目標の中に含まれているという理解でよろしいでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム

一般的な子どもの居場所のホームページというより、自分事なのかなというところ、困ったときに見るといふものを作っていきたいと思っています。

○山田委員長

委員の皆さんからこのほかには御質問などいかがですか。

○山口委員

事前にも質問させていただきましたが、今回の事業は補助金収入 50 万円、うち 44 万 7000 円がホームページ制作ということで、これまでの委員の質問ともかぶってしまいますが、ほとんどがホームページ制作の費用になってしまうので、この先この補助がなくても、事業継続はできると考えていいのか、或いは、再来年以降続けていくためにはまた別のことを考えるから、費用が必要になるか、ホームページ作成を主目的としない場合の事業の展望について、先ほどの理念のお話などとかぶってしまうと思うのですけれども、今後のことを教えていただければと思います。

○一般社団法人リトルハブホーム

今回、50 万円のほとんどがホームページ作製ではないかというところでは、令和 5 年度は 10 万円をいただいて、連続講座を 3 回やらせていただき、かなり参加者の方もお越しいただいていたのですが、そこから広げていくためには、この 2 つの事業を両輪でやる必要があると感じております。

今回申請させていただいた中で 10 万円が、私たちの団体から捻出するというところでも、ステップアップとして考えておりましたので、なるべく自立できるような活動として企画いたしました。

また、今質問いただいた、今回のホームページがなかった場合については、SNS 発信を常にやっているの、それを続けていくつもりです。

ただ、それではおそらく間に合っていないので、子どもたちの現状を本当にシビアに感じているので、悩んでしまいます。

○山田委員長

それでは時間となりましたので、質疑を終了します。

○事務局

以上でプレゼンテーション、質疑応答は終了しました。

この後、総括質疑に移りたいと思います。

総括質疑につきましては、市民活動のさらなる発展、補助制度の向上などを目的に、委員の皆さま、団体の皆さま、傍聴者の方々から、御意見をいただいて意見交換をさせていただくものです。

本日、Zoomで御覧になっている皆さんからも、QA機能で御質問いただければ、時間の都合はあるのですが、代読で対応させていただきたいと考えております。

それでは総括質疑の進行につきましても山田委員長にお願いしたいと思います。

○山田委員長

それでは皆さんありがとうございました。発表を聞かせていただいてそれぞれの皆さまの思いを理解することができました。良い時間だったと思っておりますが、総括質疑ではその上で、フロア全体で市民提案をさらに活性化、活発化させるための意見交換、情報交換をしたいということが趣旨になります。

それから、一通り意見交換が終わって、時間に余裕があれば、事前に資料を拝見する段階で大変意見が多かったことを話し合おうと思います。それは、市の補助に対する、皆さん側の意味について、つまりこういった補助を受けられることで、このように良い展開ができた、このように情報が得られた、横と繋がることなどができたなど、皆さんがどのようにとらえて企画をなさっているのかについて伺いたいと考えております。

また、既に御提案の中にもたくさん出ていましたけれども、横の繋がりや拡充が、実際に申請をされる皆さんにとっては、どのような重要性があるのか、どういうサポートが必要なのか、こうした繋がることについての意味など、様々考えられるところがあると思います。そういった点についても時間が余れば議論できればと思います。

まず冒頭に、こうした機会ですから、提案団体の皆さん、それから傍聴の皆さん、Zoomで参加をしてくださっている皆さんの御意見、御感想、それから期待感をお話ください。そして、この補助金を活用して活動したら、このように茅ヶ崎がさらに豊かで楽しいまちなると思っているといった算段などについても、自由に御発言いただきたいと思います。先ほど語り切れなかった部分、それから、もっと熱い思いを語りたい部分などありましたらお願いします。

○ART ノ TANEMAKi

この補助金に申請することの意義についてお話させていただきたいと思っています。

ファミリー・アート・デーは、これまでに複数回開催しております。

しかし、参加者の多くが健常児と言われている子どもたちです。親御さんでもあまり困難を抱えている方々は目に見えないわけです。

私たちは、子どもアートはすべての市民に与えられた特権であると考えていて、市民権を持っている人たちが参加できる権利を持っていると考えています。

しかし、私だけの力では参加できる子どもたちというのが非常に限られているということが今現状で起こっています。

令和5年に申請をした時に、リトルハブホームさんと繋がり、保護者の中でそういった教育に対してあまり熱を入れられない、資金的に無理があるお子様にも気軽に参加できる枠を作るといようなコミュニケーションもとれるような状態に今なっているわけです。

また今回の企画に関しても、障がい児等と一緒にピザを作っている、感覚遊びをしているというお話を伺って、ファミリー・アート・デーをもう少し規模を大きくして様々な子どもたちを呼びたいといったときに、御協力をお願いできるかなと今考えているところですし、また感覚過敏など、例えば、光に対して過敏な子どもたちに対して、どういった配慮を私達でできるのかという環境設定について、伺うことができると考えておりまして、学びの機会には非常に豊かなものであると感じています。

もう一つありまして、令和5年度の実施団体さんにうみこころさんというアーティストさんがいらっしゃるのですけれども、その方々との連携もかなり積極的に行っていて、4月、能登半島で起きた震災における寄附として、アートワークを参加費ではなくて寄附金としてお支払いいただいて、それを能登に届けて能登に届けるだけではなくて、能登からもありがたいのメッセージだったり、元気にやっているからねといったフィードバックを受けられるような仕組みづくりと一緒に考えて活動できるというところまで発展していますので、非常に貴重な機会だと感じているところです。

○山田委員長

そういった御報告やさらなる展望に関することも含めて、他にはどうでしょうか。

○茅ヶ崎市市民まつり実行委員会

もともとの基金は、マッチングギフトでした。

市民、或いは市外の方が寄附をすると、同額を市が予算化し、例えば補正予算を組んだりして、本基金に入れていたという過去があります。

残念ながらコロナの頃に一旦それを止めますということで、議会側も賛成をした上で、今休止されていまして、つまり寄附金だけで基金が維持されている状況です。

これについては、もちろん委員の方は御存知だと思うのですが、申請をする我々、それから市民から、二元政治のもう一方である議会に対してきちっと訴えをしていくということも必要かと思います。

実は議員さんの中に一般質問等でこの問題を取り上げられている方はいらっしゃいます。

ぜひ皆さん、それから委員の方も、諮問に対する答申だけではなくて、委員からも意見が言えるのが茅ヶ崎市の行政委員会の制度でございますので、ぜひとも、年に1度は皆さま方からも、理事者側に訴えをしていただければと思っております。

○山田委員長

委員会として御意見をお預かりしました。他にはいかがでしょうか。

○任意団体わわわのわ

私は市民活動を始めて5年くらい経つのですが、今回初めて補助金の申請をしました。

市と繋がることに少し臆病になっていた、少し難しさを感じていたのですが、こうやって市と繋がることで、届く人たちが違うと感じています。

プレイパークも里山公園と共催という形になっているのですが、私たちが個人でインスタやフェイスブックで発信していたときよりも、様々な人、例えば障がいのある子どもたちだったりとか、私たちでは届けられなかったお年寄りの人が顔を出してくれて、一緒にベーゴマをしたり、こままわしをしたりという広がりをとても感じています。

また、さっきここにいた2人は娘なのですが、上の子が学校にあまり行きたがらないここ3年間を実は過ごしてしまして、元教員として働いていたのですが、母親として感じたこの3年間、様々な葛藤や、周りに理解してもらうことの難しさをもものすごく感じてきました。

こういう市の一つの事業として、今回、青空寺子屋というものを入れたのは、声にならない無数の、娘のように、苦しさを感じていたり、私も一母親として葛藤していたということを、自分の中にとどめるのではなくて、繋がることだったりとか発信することで、様々な人が生きやすい社会になっていくではないかと思って勇気

を出してこの補助金に少し踏み込んでみたというところです。

ですので、今回も様々な方とこうやって繋がって、これから事業が広がっていくことがすごく楽しみです、一つ一つ丁寧に仲間たちと進んでいきたいと思って今日皆さんの話を聞いていました。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○一般社団法人リトルハブホーム

毎回プレゼンテーションは緊張して、気持ちが伝わったか少し不安なのですが、私も茅ヶ崎3年目なのですが、すごく、市民活動が活発で、今日もとても勉強になりましたし、心強い繋がりができてとても嬉しかったのと、本当に顔の見える関係、まちのことを考えてくれる人が多くて、すごく可能性を感じていますが、子どもの課題に関しては、例えば家庭児童相談室、子どもの相談できる場所があるのですが、その広報媒体がモノクロで、それで相談に乗れますと書いてあるのですが、今の時代、携帯で見て、ワンクリックでわからなかったらもう飛ばしてしまう時代では、もう少し若者を取り入れるような仕組みづくりが必要だと思っています。

皆さん気持ちがあって、活動されているので、得意な方に任せるというのもとても大切でこうやってアートの得意な方と繋がったり、にじカフェさんも毎週、うちの子どもがお世話になっておいしいものをいただいているのですが、そういったところで、まち全体でつながれるようなきっかけをこの補助金でいただいているような気がしています。

○山田委員長

続いてお願いします。

○傍聴者

私は20年くらい前から、シニアのための活動を個人的にやっていて、歩く会とか、合唱団とか、様々なことをやってきました。今はグランドゴルフを立ち上げて今40人くらいいます。

これまでそういうものの立ち上げをしてきて、市の補助金をいただけるという頭がなかったものですから、みんなで出しあってやってきました。

それで、今回聞かせていただくと、子どもさんのための事業はいっぱいありますが、シニアのための事業は一つあったけでした。

私が市役所に来て一番感じているのは、足がないということです。

にじカフェさんに行きたくても、足がないのです。

みんな足が弱くなって運転もしなくなる。自転車も乗らなくなる。バスで行けばいい、タクシーで行けばいいと思うかもしれないのですが、私たちの世代は、自分の楽しみのためにお金を使うことに罪悪感があります。子どものため、孫のためならお金を出すけれど、自分のためにタクシーに乗るとか、そういうことをしない人が多いです。

そういうところが何とかならないかと私は思っています。

シニアの生きがい、皆さんお父さんお母さんがいらっしゃると思いますが、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんが元気でいれば、子どもさんたちの育児の力にもなるかと思っていますし、医療費の削減にもなるとしています。

お年寄りの方は合唱などをしていて、みんなすごく元気になっています。

私はもう先は見えて、それこそ良い死ですよ。誰だって死ななきゃならないけど、できる限りよい死を迎えたい。生きがいを持って、この人生が楽しかったと言って死にたいという気持ちがすごくみんなあります。

だからそういうことについて何かできないか考えてみようかなと思います。

○山田委員長

また次の市民活動の種ができた感じですね。他にいかがでしょうか。

もしもなければ、ここからは横の繋ぎの拡充について話し合いましょう。このように期待できる、それからこのように良いところがあるといった点を少し理念的にまとめていきたいと思っています。委員の発言も含めて、さらに意見交換したいと思っています。

ぜひ、委員の皆さんも御発言してください。こうしたところがうまく伸びている、発展している、さらに期待感が持てたなど、率直な感想やアドバイスも含めて自由にお聞かせください。

会場と Zoom の方も、何かありましたら、お尋ねいただきたいと思います。

○任意団体わわわのわ

私たちは先ほどもお話したように子育て中のお母さんたちが基本メインで、活動の軸になっているのですが、だんだん子どもたちが成長していくと、大体のお母さんたちは働きたいというフェーズが来ます。

今のメンバーの中にも中学生のお子さんがいるお母さんもいて、今は基本ボランティアなのですが、仕事をしたいとなったときに、レジの仕事をするのは、私はすごくもったいないといつも思っています。それまでの活動とか、スキルを生かした形が、仕事になっていけば良いと思っています。私たちの活動もそうしていきたいと思っていますが、すごく難しいと思っています、どうやってそれを叶えて

いったらいいのか。ここ3年くらいでそうしていきたいと、結構本気で思っているのですけれど、どうしていったらいいかすごく考えています。

補助金を今年初めて、こことあと二つ申請をしたのですが、一つは駄目で一つはいただけて、ここが後残っているのですけれども、やはりそこでいつも言われるのは補助金にずっと頼っていたら駄目だよということです。自分たちで事業をまわしていくことを先々考えなくてはいけないというのも、私たちの方向性としてすごく大切なことだと思っているのですが、それもどうしたら、どうやったらいいのか、今メンバーといろいろ話しているところです。

多分こうやってこの場で横の繋がりもできて、こうやって委員の方たちにも、自分たちがやりたいことを発表させてもらえて、1年間見ていただけるというのはすごくいい機会だと思っています。この市民活動を、たくさんのお金はいらないのですが、モチベーションを持ってやっていること、まちづくりを、仕事にすることを叶えるために、皆さんの知恵を借りてやっていきたいと思っているので、何かあれば、本当に厳しいことでも言っていただけたら嬉しいと思っています。

○山田委員長

この課題は、皆さん共通の悩みではないかなと思います。

おそらく、補助をする側としては、この補助金を得ている期間に頑張って望ましい発展をしてくださいと割とあっさり言うてしまうでしょう。しかし、団体の皆さんにはかなり深刻で、重い悩みではないかと思います。

そういうところについての感想や、このようにしたら、少し変わったというような御経験をお持ちの方、今の問いかけについて、リプライや応援などありますでしょうか。成功するばかりが大切なことではないと思いますので、こんな失敗したけど、このように切り換えたといった経験などいかがでしょうか。

○坂田副委員長

後ろに茅ヶ崎市の市民活動サポートセンターの中野センター長がいらっしゃるので、いざとなったら中野センター長を頼るのがいいのかなと思います。

私も平塚でセンター長をしておりますが、市民活動は本当に資金調達が難しく、法人化をしたい団体さんに向けて、どういう資金調達の方法があるか、お話しをするのですけれど、一番安定的でしかも自由度が高いのは会費と寄附です。なので、会員を増やしましょうという話をよくします。

NPOの業界では、100万円の寄附を1人からいただくのと、1万円の寄附を100人からいただくのはどちらがいいですかという話をします。

100万円の寄附は、来年再来年あるかどうかかわからないです。

今回例えば、補助金で50万円もらえたら嬉しい。でも来年はない。一方で100

人いる会員さんは、来年もいる。ということは、すごく強い力になっていくので、会員や賛同者を増やし、そしてまたそれを応援する寄附者を増やすということが、一番安定した財源になります。

それから、会費は会員から信託を受けていただいていますので使途も自由です。使い方を総会にかけることができます。

もう一つ自由度が高いのは自主事業です。参加費を取るのも自由です。参加費として 500 円、1000 円いただければ、本当に大切な自主事業の収益になるので、それを分配せずに、事業に使うように貯めていくこともとても自由度が高いです。

もう一つ、使途が制限されているのがこういった補助金、助成金です。その事業以外には使えないという決まりがあります。

もう一つは市や、企業さん、県からの委託事業がありまして、これも金額が大きいのですが、仕様書以外のことはできないデメリットがあります。

この四つの種類の資金をどうまわしていくか、自分たちは幾らあれば、この活動を継続的にできるのか逆算をすることもいいと思います。

一方で目の前の困っていることを解決していかなければならないと、どうしても目の前のことに注力してしまうので、組織基盤的なものを考える時間がなかなかつけないのですけれども、そこはやはり同時並行で考えていかないと安定的な運営に繋がっていかないので、3 年から 4 年くらいの間にしっかりその部分を作り上げていくと、その先が見えてくるかなと思います。

もし何かわからないことがあったらぜひちがさき市民活動サポートセンターの中野センター長に御相談していただければと思います。

○任意団体わわわのわ

相談を今まであまりせずに、感覚でやってきたところがあるのですけれども、こうやって様々な方に聞いていただいたり、相談できる先が増えてよかったです。頑張ります。

○傍聴者（ちがさき市民活動サポートセンター中野センター長）

具体的なアドバイスというわけではないのですけれども、昨年度の公開プレゼンテーションに参加された団体が、このプレゼンテーションが終わった後にとってもコミュニケーションをとって、すごく盛り上がったのですね。

議論も活発に行われてとても連携が進んで、一部の団体さんが集まってプラットフォームを作りました。もっと市民の方に自分たちの活動を PR したいですということで、とても熱い思いを受けまして、そういうことがきっかけになって、この 2 月に未来トークというイベントを企画しました。

そこで市長と副市長に来ていただいて、団体さんにプレゼンテーションをしてい

ただく機会を設けまして、今日は市長は挨拶だけで帰られてしまったのですが、団体の皆さんの思いを非常に熱心に聞いてくださって、茅ヶ崎は本当に様々な団体さんがこんなに彩り豊かな活動をしているんですねと、とても感銘を受けてらっしゃいました。

直接的に市と連携が進むとか、何らかのお金が増えるということではないのですが、そういったことを積み重ねていって、本当に市民活動が茅ヶ崎でとても盛んだということをPRしていくことも、次に繋がっていくと思いますので、ぜひこういった場を活用して、また先ほど発言もありましたが、足りないところを得意な人をお願いしていくといった、皆さんおそらく人数が少なくて、カツカツでやってらっしゃる団体が最近多いと思うのですが、広報の連携をしていくとか、人員の連携をしていくとか、そういったことで、みんなで繋がり合いながら活動していただくと、また次のステップに進みやすいと思います。

○山田委員長

時間となりましたので総括質疑の時間は以上とさせていただきます。こういうプレゼンテーション、今回は補助金の申請ですから、この審査によっては、皆さんの今後の展開が変化することもあります。そして、ぜひこのような意見交換の機会を利用して、いろいろな繋がりを持っていただけると嬉しいと感じました。

皆さん御協力と御発言どうもありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

冒頭も御案内差し上げたのですが、令和6年度事業の採択と評価につきましては、3月下旬頃に、皆さんに書面でお伝えするとともに、市ホームページ等でもお伝えして参りますのでよろしくお願いします。

以上でプログラムはすべて終了となりましたので、閉会に当たりまして、山田委員長より一言御挨拶をいただきます。

○山田委員長

皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。

皆さんからの思い、それから宿題、そして、工夫などのアイデアをたくさんちょうだいいたしました。委員会としては来週に評価会議という場を持って、審査内容の結論を出して、これを市にお届けするという段取りになっています。

そこでもう一度皆さまの思いを確認し、議論をしたいと思っています。

委員会としては審査に時間をかけているつもりでして、企画書を事前に拝見し、事前の会議を開き、そこで事前質問を決定させていただきました。そして、今日の

プレゼンテーション、さらに来週の評価会議という進行で、支援の最終的な答申を作らせていただく段取りになっています。

きちんと理解、把握しようと思って、努めております。このような過程を通じて、できるだけ適切に審査ができるように努力をして参りたいと思います。

次にちょうどしたコメント等に対して、この場で簡単にリプライいたします。坂田副委員長と中野センター長から、学び合いの場や、協力の場や相談の場が、茅ヶ崎市の中にもすでにありますということを、御説明いただきました。そこで、委員会として考えていかなければならないのは、市がこのような補助事業を展開する仕組みについては、さらに検討する点でしょう。例えば、補助の期間ですとか、補助するタイミングといったことも含まれます。皆さんにそれぞれ期待があって、それが伝わって参りました。

この事業を市民の側から見たときに、どんな意味があるのかは、引き続き委員会の中でも考えつつ、整理ができればと思いました。

今は、制度の見直しも含めて委員会の中でもたくさん議論をしている段階です。この皆さんの申請後、採択の段階で、そしてその最後の活動成果報告を聞く段階でも今回のような議論をして、さらに充実を図ってまいりたいと思います。

それから2点目、例えば、人口の問題や高齢化の問題で、市民が様変わりしてきている時代の中にあっては、物理的にもものを移動させる或いは体を移動させるという問題は非常に深刻でしょう。そういったところを、体力とお金で一体だれがどのように支えるかについて、引き続き問題点として検討が続いていくのだろうと今日も実感いたしました。

他方で、気軽な少額のサポートについては、世界的に見ましても、それから企業経営の点で見ましても同じように言われています。サブスクというようなサービスがあることを考えると、日常的に、少額をコンスタントに払い続ける仕組みについては大分浸透感があると感じています。

もしかすると、こういったところが今後のヒントになるのではないかと思います。

一方で、市民活動と企業活動の決定的な違いは、その理念をもって、市民活動の皆さんは勝負しないといけないということです。

もちろん活動は伴うのですけれども、皆さんの温かい思いやりの気持ちであるとか、まちを愛する強い気持ちとか、それから、福祉に対する固い意思であるとか、そういったようなものを含めて、その思いを議論するということを通じて、ファンが獲得されていくという意味です。サービスやものの売り買いがある企業のあり方とは、もう少し違った仲間の集め方をしなければいけないところは、明確な違いがあると感じます。

その点では、やはりミッション、市民活動はやはりミッションを語ることが大事

だと思えます。

私たち委員も、今回の各事業について、1年間の活動の意味や中身について、ミッションを理解すべく議論させていただいているつもりです。

そうしたところを踏まえて、これが次の活動にどのように繋がっていくのか、その先にどんな展開になっていくのか、単に団体の拡大とか成長とか、収益の拡充だけではないところも想定しつつ、皆さんの思いを拝読しています。

企画段階で先の話をするのは難しいところですが、この申請作業を通じて整理されたところが、皆さんの活動の拡充、皆さんの活動の整理に繋がっているならば、なお幸に感じたところでございます。

皆さん今日は半日の予定でしたけども、どうもありがとうございました。

○事務局

山田委員長ありがとうございました。

また皆さまにおかれましても、プレゼンテーションと質疑応答、長時間にわたりまして御参加いただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、本日のプレゼンテーションは終了とさせていただきます。

本当に皆さまありがとうございました。